

# 付着生物ラーバ情報

## ユウレイボヤのラーバの本格的な出現はこれから

### 1 ラーバ等の出現状況

ラーバの調査地点は図1、出現数は表1、出現数の推移は図2、3のとおりです。

#### (1) ユウレイボヤ (通称: ハナ)

ラーバは見られませんでした。(表1、図2)。

#### (2) ムラサキイガイ (通称: カラスガイ、シウリ)

ラーバは奥内沖で11月1日に6.7個体/m<sup>3</sup>、11月9日に0.8個体/m<sup>3</sup>、久栗坂沖で11月6日に0.6個体/m<sup>3</sup>、野辺地沖で11月1日に1.6個体/m<sup>3</sup>、11月9日に8.6個体/m<sup>3</sup>見られました(表1、図3)。

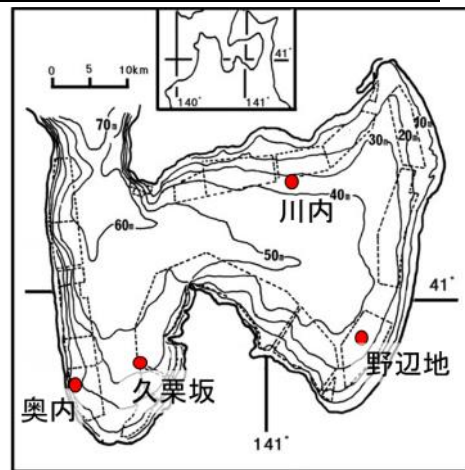


図1 ラーバ調査地点

### 2 今後の見込み

#### (1) ユウレイボヤ

現在、陸奥湾内の中層の水温は17℃前後です。

ユウレイボヤは20℃以下で産卵するので、今後本格的なラーバの出現と付着が始まるものと思われます。

未分散のパールネットにユウレイボヤが多く付着している地区では、ラーバが出現する可能性があるので親ボヤを減らすために分散作業を進めてください。また、ユウレイボヤは深いところで多く付着することが分かっているので、施設を沈めすぎないようにしましょう。

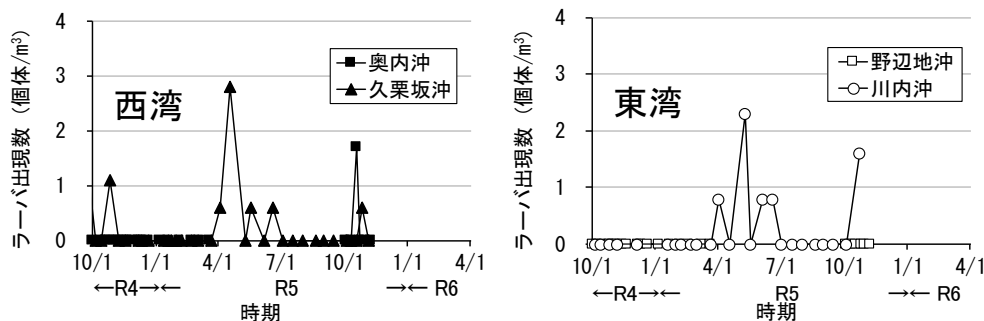


図2 ヲレボヤラーバ出現数の推移(令和4年10月~令和5年11月)

・平成25年の観察開始から現在までの最大値: 西湾 25個体/m<sup>3</sup>、東湾 10個体/m<sup>3</sup>

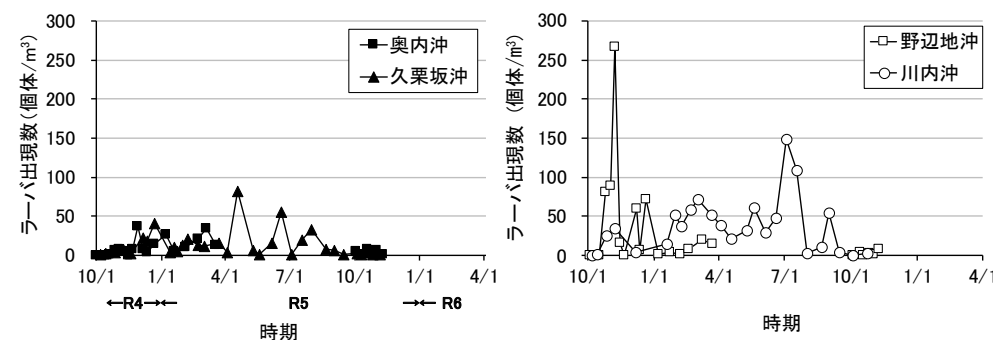


図3 ムラサキイガイラーバ出現数の推移(令和4年10月~令和5年11月)

・平成27年の観察開始から現在までの最大値: 西湾 417個体/m<sup>3</sup>、東湾 1,650個体/m<sup>3</sup>

#### (2) ムラサキイガイ

ラーバが出現していますが、秋から冬生まれのラーバの付着はほとんどないことが分かっています。

表1 ラーバ等の出現状況

単位: 個体/m<sup>3</sup>

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	ムラサキイガイ	サンカクフジツボ	マホヤ	
						ラーバ	卵
奥内沖	R5.11.1	0.0	0.8	6.7	0.0	0.0	0.0
	R5.11.9	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0
久栗坂沖	R5.11.6	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0
野辺地沖	R5.11.1	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0
	R5.11.9	0.0	0.0	8.6	0.8	0.0	0.0

